

264

2296

死没者調書

本籍地

道族住所

所屬部隊

役種

官等級

戰地到着年月日

勤務概要

全無

第一師團 七 需部

軍属

工 負

昭和二十年四月十日

一 需部以配給所工負トシテ輸送任務ニ従事

受傷原因年月日

受傷部(病名)

受傷(疾病)又

昭和二十年一月十四日

全身火傷

爆薬ニ依リ火傷セシメ傷後病舎ニ收容中

戰死時狀況
 同日辰巳 逐之北亡也
 昭和二十一年一月十四日
 揚子江方面時 根據地跡 痕跡

記事
 遺骨公藏後復入之被立標記

右由吉不

昭和二十一年 八月 奉命

甲本籍地	生石	中
吉飯郷先	工務隊員航路野呂等級	中
者所屬部隊	入籍番号	終
氏名		

(終)

204-10

263

死没者調書

左籍地	遺族住所	所屬部隊	役種	官等級	勤務概要	受傷(疾病)年月日	受傷部(病名)	受傷(疾病)又
全右	第一師團之需部	軍屬	兵種	工員	昭和三年七月二十日 一需部口配給工員トニ 勤二從軍	昭和三年四月十日	不明	昭和三年四月十日 不明

戦死時状況 死年月日時刻 及場所	記事	右申吉久 昭和十一年 月 日		申本籍地	吾師御光	者所属部隊	氏名
予爾愛を依り戦死 昭和十一年 月 日 在 敵 陣 中 遺骨は捕虜となり一級に昇格		[Redacted]		[Redacted]	上海軍艦隊部 一等兵	[Redacted]	入籍番号

昭和二十一年九月九日

死亡年月日 昭和二十一年九月九日 死亡場所 上海 死亡原因 戦死

死亡時の状況 石井大佐は、上海の戦況が不利となり、全隊は右の通り退却してゐます。申すに、石井大佐は、戦死したと見られます。

昭和二十一年九月九日

申告書の 署名 石井大佐 印

本 姓 名 石井大佐

所属部隊 第一護衛隊 隊員 石井大佐

信 者

一 本隊は死戦中の最上級の一員を失つたものであり、誠に遺憾に且 陣地に陥入して下さい。

二 他人から聞いて承知した場合は、其の旨を尾端に記入して下さい。

(終)



昭和二十四年四月三十日

佐世保地方復興隊移駐部復興事務課長殿

不復面有消息聞正件 回答

元(曹) [redacted] 八防三戸分隊三勤務中 兵隊配置止 本人特選運貨

船諸習員ヲアリマス

福

昭和三十四年四月二十九日青特根轉動為佐世保隊(北見便衣)五月十一日青島
青特根根水上警備隊(後入港部隊改名也)二隊中砲艇長ト配置一也

砲艇(機南砲艇隊)文組中(警員)某日補給任務ヲ受ケ石山砲艇隊ニ出港

任務終了後翌朝歸港ノ途ニ就中途中(砲艇二機ト遭遇シ之ヲ應戰シ經數秒下

ニ多量ノ爆弾ヲ投擲シ中機斃傷員多量ト達ニ其ト交リ機銃ニ就テ應戰ヲ絶セ

テ其中一機斃多量ト達ニ其機銃ニ就テ應戰ヲ絶セ

佐世保地方復興隊事務課

187-56

場利を以て關總境に吾文ヲ打テ一連呼中敵兵ハ去リテ負傷兵ヲ補充兵
 ニ名取義ヲ覆蓋運の途中苦痛の處スルヤ天皇陛下下方有リ此ヒノ京
 天セリ以上物語スに衆兵ニ聞カスルヲ想ヒ出シテ一綴リナリ

記

戦死確實

復員時

現在

思フ

（家出）

（村）

（出）

（備士官）

住所不明

戦死ノ遺品其ノ他ハ一切終了シタメト恩ヲ遺骨ノ青島ニ火葬被

ハ知リヤセン

進神

参務整頓官自夜ノ御苦勞ヲ衷心ヲ感謝シテ整理ノ連ニ然ル日ノ近カラレト

の祈リマシ

和モ平和事業トシテ坂本軍ヲ善シテ中マシ

皆神ノ御運中ヲ祈リマシ

并路春暖の候其後復更向人事部御勤務の事様方
には御勇健に渡りてらぬ一層及人事に關し米帰還
者、省息諸事及死没者の手續等に關し残務は程
に一方よりぬ御所祈と御多忙に御盡力の程一重厚く
御禮申上げます。

又、私に台書より復更にて帰還せし一人下御屋居あり
其れに因し勤務中戦友として治癒生並して居り
ました 本籍地

君山 其の當時の階級は海軍一等兵
官書で有りました。君は自勤軍隊員として
勤務中自勤軍隊中敵戦闘域の戦況を察し受
け自勤軍隊と共に昭和二十年六月一日戦死致しました。

勅務部隊は當時南台海軍航空隊派瀬瀬恒春以定限
勅務下其の當時の手紙の宛名は 鹿屋航空基地奉付
イ三八艦隊 部隊で有りまことた。

戦死された 恩霊祭をすませ 道骨及本人
の遺留品をまとめて昭和二十年七月 日南台海軍航
空基地に送り届り、所部 空海軍人部部中の表
書にて表書には受取人本籍地

に残りまてんが長兄 孫宝宛御送附致した
様で次第で御座居ります。其れがウー月半選が
た八月十五日終戦の止むなきに到り本人はもうろん
誰彼と言はず残念な想出となりまことた

其れがう私は昭和三十一年三月二十一日、
事、輝瑞致の氣は給うた下う早速、
族の首領方に御射めの言葉と遺言及遺留物を取
つて、載いた事と、いひ御手紙を上げ、
にも遺言族の長兄、
私宅（御越）に下さ、
を詳しく御註申上げ、
其れがう、
りません、
載言まとたので、
なく、
まう、
また、
また、

● 君の戦死と云ふ事も乱事にて御前
知申上ぐま大案で御座居ます

私以外何の連絡も詳細が有りません
様室へ御連絡してやうと云ふ事は甚だ
無理と存じます何卒宜敷く御願申
上げます

時候不順。折々復員局人事部に御勤務の
皆様の今後の一命一炊御健康御多幸を祈
り上げ。御事務整理に御協力下さる
ことと乱事御願申上ります

御氣儘良く

不へ

● 戦死の人々

● 君の戦死と云ふ事も乱事にて御前

● 戦死

63574

本
籍
地

現
在
所

刑部
刑部

大正三年四月

宮子殿

上卷

和氣年三月七日

老賴兵

水
井

軍需印 所屬錄凡三重軍有幾幕遠及
PB 今Y三機一海上二府子之戰似戰既輝
戰死 遺骨 古持券不能入急工區口能了埋
第10次三邊

龍和三年七月四日己卯
楊士弘

中

本

部

中

部

中

中

可也衣及以件... 知得... 部... 中

... 部... 中

... 部... 中

... 部... 中

...

(甲)

[illegible]

未帰還者等の番号 5205

7-10

5022

死 没 者 調 査 書

本 籍 地	[REDACTED]		
現 住 所	[REDACTED]		
所 属 部 隊	中支策一海軍施設部 第四号倉庫		
入 隊 年 月 日	昭和九年三月	役 種	海軍兵種
等 級	海軍少佐	氏 名	[REDACTED]
出 発 年 月 日	昭和九年九月	出 発 地	佐世保大佐
外 地 到 着 年 月 日	昭和九年三月	外 地 到 着 地	上海
勤 務 の 概 要	上海海軍施設部第四号倉庫勤務倉庫事務及輸送方面		
死 亡 年 月 日	昭和二十二年二月廿一日		
死 亡 場 所	上海		
死 亡 状 況	空襲機銃シロシヤ被弾		

死 亡 年 月 日	昭和二十二年二月廿一日	死 亡 場 所	上海
死 亡 状 況	空襲機銃シロシヤ被弾		
石の通承知一としてより用台致一する 昭和二十二年十二月			
申 告 者 の 所 属 部 隊	中支策一海軍施設部 本部		
所 属 部 隊	[REDACTED]		
現 住 所	[REDACTED]		
本 籍 地	[REDACTED]		
等 級	海軍少佐		
氏 名	[REDACTED]		

備考

- 一 本調査書は死没者の身上関係一切を處理するものであるから慎重に且、詳細に記入し、下へ、
- 二 他人から聞いて承知した事項は其の旨末尾余自記入し、下へ、

昭和廿四年二月十二日

復員業務課長殿

死歿者有同する件 照會回答の件

旨趣の件 佐復人第一七第の二昭和廿四年一月七日附き
て 御照會の元水 [redacted] 名の戦病死状 漫左記に概く
御答うせ致します

一 此の年月日 昭和廿四年七月二十日

一 此の場所 鎮海々軍病院

一 病名 腹チブス

一 係事 此の美し承知する飯屋者 [redacted]

妻は二月二十日頃より急病となり同日廿二日より鎮海々軍病院へ入院し
に於て同夜通夜をなし翌日大勢よく耐え其の後二日後御事す

2275
24年3月 日付

佐世保地方復員課業務課長部

於て我々所の士有深長殿ハトセハ名ヲ會テ致シ
 矢(戰病北同時上字水々ハ進級)

[Redacted text block]

113-113

籍貫		[Redacted]	
住所		[Redacted]	
職業		[Redacted]	
氏名		高砂凡	
生年月日		[Redacted]	
出生地		採飛手	
教育		昭和七年	
婚姻		[Redacted]	
配偶		陸子	
家族		[Redacted]	
その他		中国香港	

住所		中国厦門	
氏名		[Redacted]	
生年月日		昭和三年七月十五日	
出生地		[Redacted]	
教育		[Redacted]	
婚姻		[Redacted]	
配偶		[Redacted]	
家族		[Redacted]	
その他		[Redacted]	

備考
一 本籍書目記載者より大出係一列を処理するに及ぶより、本籍から
機密に生ずる詳細は記入して下す。
二 他公の同姓者を知り、事項を他参考より、その詳細を知る。
三 得る詳細は記入して下す。